

議事 1

「令和2年度 地域公共交通確保維持改善事業の
自己評価」

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 各務原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス蘇原線	平成27年10月より運行しており、毎時のパターンダイヤや商業施設、総合病院への乗り入れにより、市内ふれあいバス路線でも最も利用者数が多い路線となっている。令和2年度は、さらなる利便性向上に向けて鉄道駅との接続等について検討を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施	【目標値】 乗車人数49,000人/年(7人/便) 以上 【結果】 乗車人数48,540人/年 7.2人/便	・令和元年9月から令和2年2月までは、前年対比5~13%の利用増となっていたが、新型コロナウイルス感染症により、4、5月は約半減となり、その後も前年の約7割程度の利用となっている。 ・車内消毒等による感染症対策の実施やその周知を図り、安全に利用できる公共交通機関として運行を実施していく。	
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス東西線	市内総合病院や高校への通院、通学の足として利用が多い路線であるが、利用実態を踏まえ、令和元年10月より17時以降の利用者数が少ない便を廃止。その後もコロナ禍前まで月100人程度の利用増となっており、効率化な運行を実施した。	A 計画どおり事業は適切に実施	【目標値】 乗車人数16,000人/年(6人/便) 以上 【結果】 乗車人数 16,356人/年 8.5人/便	・17時以降の便を廃止後も、令和元年9月から令和2年2月までは、前年対比2~19%の利用増となっていたが、新型コロナウイルス感染症により、4、5月は約半減となり、その後も前年の約8割程度の利用となっている。 ・車内消毒等による感染症対策の実施やその周知を図り、安全に利用できる公共交通機関として運行を実施していく。	

議事1-①

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

令和 年 月 日

協議会名：	各務原市地域公共交通会議
評価対象事業名：	生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市総合計画において“笑顔があふれる元気なまち”を将来都市像として掲げ、全市民、企業、行政が独創的な施策を戦略的に展開することで、人々や産業、地域が心の底から夢が湧くような都市の実現を目指している。</p> <p>公共交通については、総合計画と整合性を保ちつつ、公共交通網形成計画を策定している。</p> <p>形成計画において、鉄道やバスを利用して、皆が健康で、安心かつ快適に暮らせるまちの実現を目指しており、市民、交通事業者、行政が三位一体となり、公共交通ネットワークを育んでいく必要がある。</p>

議事1-②

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

各務原市地域公共交通会議

平成25年11月25日設置

フィーダー系統 令和元年6月24日 確保維持計画策定等

□各務原市の地域特性、背景

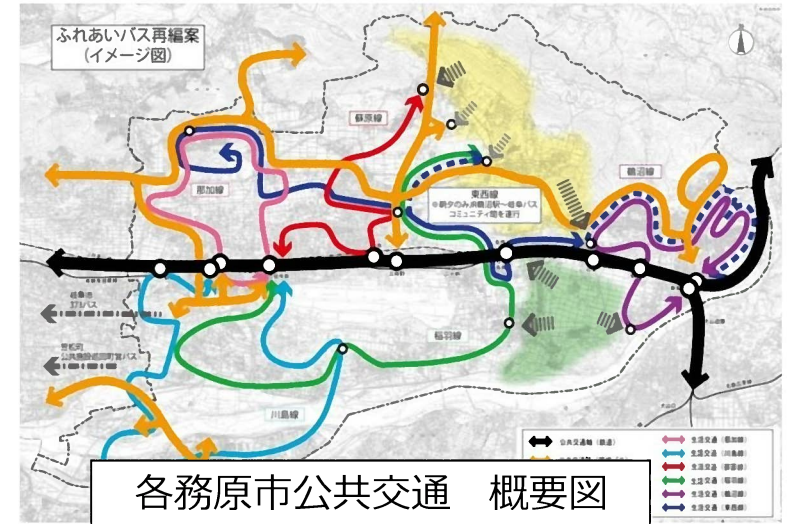
- ・市域は87.81km²で、市域の多くが平地
- ・人口は147,182人（令和2年10月1日時点）で減少傾向
- ・高齢者の割合は増加傾向にあり、平成26年には25%超

□当市形成計画の目標・目標達成に向けた手法

- ・市内に存在する多様な交通手段が連携した環境にやさしい公共交通ネットワークを形成し、市民の移動ニーズに応じたサービス提供を目指す

□各務原市における公共交通について

- ・鉄道、路線バス、一般タクシーに加え、コミュニティバス、デマンドタクシーが運行
- ・令和2年に網計画後期計画を策定。同計画に基づき、各務原ふれあいバス等を運行



- 鉄道 : 名鉄犬山線・各務原線 (12駅)、JR高山本線 (4駅)
- 路線バス : 岐阜バス12系統、名鉄バス2系統
- 一般タクシー : 5事業者の営業所が存在、市全域を網羅
- コミュニティバス等 : ふれあいバス (7路線)、ふれあいタクシー、チョイソコかかみがはら



一部改正 (R1.10.1) (東西線・東西線朝夕便・川島線、稲羽線)

利用促進・利便性向上

商業施設と連携した利用促進

- ・新たにオープンしたイオンタウン各務原鷓沼と連携し、公共交通で買物に行くツアーを開催
- ・普段利用したい行先へのダイヤ・路線検索等も行い、今後の利用に繋げた (11人参加)

各種出前講座

- ・地域等の要望に応じて公共交通に関する出前講座を実施

鉄道駅のバリアフリー整備

- ・名鉄「新那加」駅において、鉄道事業者と連携し、駅構内及び自由通路に3カ所のエレベーターを設置

意見交換

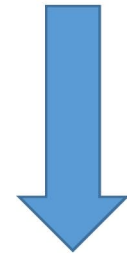
懇談会の開催 (R1.7~8月)

改正案の説明・新たなニーズの把握
計154人の市民が参加 (12会場13回)
公共交通の現状や運転免許証自主返納
に関して説明・意見交換を実施

交通事業者との定例会 公共交通会議の開催

網計画策定

- ・計画案の協議
- ・パブコメの実施



網計画後期計画を策定 (R2.4)

【後期計画の概要】

- ・鉄道を軸とした公共交通網
- ・タクシーを公共交通として位置付け
- ・目標値を市内公共交通全体で年間1,807万人に設定



「チョイソコかかみがはら」実証に向けた準備

新型コロナウイルス感染症対策

- ▶交通事業者による感染症対策
- ▶プレミアム商品券等の交通事業者適用、広報紙での公共交通特集 等

- ・「各務原市公共交通網形成計画 後期計画」スタート (令和2年4月)
- ・「チョイソコかかみがはら」運行開始 (令和2年10月)

□ 当市網計画で示す評価指標

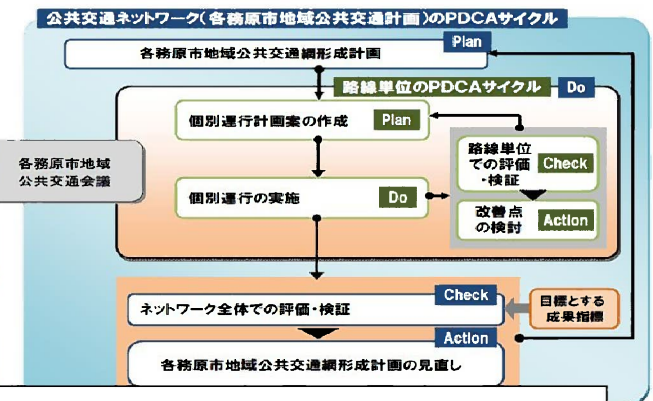
内容	現状 (計画策定時)	目標指数	現状
鉄道、路線バスの利用者数 市内鉄道駅乗降者数 路線バス利用者数	14,505千人 (H24年) 475千人 (H24年)	現状維持	15,709千人 (H30年時点) 401千人 (H30年時点)
日頃バスを利用する人の割合	27% (H25年)	32%	24% (H30年)
ふれあいバスの年間利用者数	16万人 (H25年)	20万人以上	20万人 (R2年度)
公共交通利用の不満割合	26% (H25年)	現状未滿	20% (H30年)

□ 生活交通確保維持改善計画における評価指標

ふれあいバス蘇原線：乗車人数7人／便以上、49,000人／年 以上)
 ふれあいバス東西線：乗車人数6人／便以上、16,000人／年 以上)

□ 目標達成に向けた手法及び自己評価について

- ・ 目指す姿を地域住民、交通事業者、行政で共有
- ・ 三位一体で公共交通の維持・活性化に向けてPDCAを実施
- ・ 数値による評価に加え、地域懇談会等の意見、要望等から自己評価を実施
 地域懇談会等では、調査事業の結果や改正案を提案の上、意見交換を実施。
- ・ 本自己評価は、令和3年1月15日の公共交通会議にて協議



議事 1 - ④

懇談会の様子 (左)、公共交通のPDCAサイクル (右)

- ・ 利用実績及び市民の意見や評価等を踏まえて実施 (国庫補助対象路線は**橙色**)

評価指標 A: サービス維持 B: 路線継続 C: 路線見直しの必要性有

種別	路線	利用者数 (人)	乗合率	補助	評価指標	評価
ふれあいバス	鵜沼線	40,899 (▲7,048)	7.4 (▲1.6)	県補助		B
	那加線	27,222 (▲4,580)	7.5 (▲1.3)	県補助		B
	稲羽線	33,290 (▲8,396)	7.4 (▲2.8)	県補助		B
	川島線	28,664 (▲5,641)	8.5 (▲2.9)	地域間幹線		B
	蘇原線	48,540 (▲7,951)	7.2 (▲1.2)	フィーダー	49,000人/年、7.0人/便	B
	東西線	16,356 (▲2,296)	8.5 (+0.8)	フィーダー	16,000人/年、6.0人/便	A
	朝夕便	1,856 (▲830)	3.8 (+1.0)	県補助		B
ふれあいタクシー	須衛・各務	2,586 (▲217)	1.28 (+0.03)	県補助		B
	鵜沼南	940 (▲690)	1.24 (▲0.01)	県補助		C
全体		200,353 (▲37,649)	バス: 7.1 (▲2.2)		200,000人/年	A

路線ごとの主な状況

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響前 (令和2年2月まで) は、**路線全体でも平均5.5%の利用増**
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、**4・5月**はほとんどの路線が**前年対比約50%まで利用者数減**
- ・ 特に、航空宇宙博物館への観光利用及び市内高校の通学利用の多い**稲羽線・川島線**は**前年対比約40%**、最も利用が減った路線は、通学利用がメインとなる**東西線**で、**前年対比約10%**まで利用者数が減少
- ・ 令和2年**6月以降**、**前年対比約70%**まで利用者数が戻る
- ・ ふれあいタクシー鵜沼南エリアは、新型コロナウイルス感染症とは別途、**固定客が離れたこと**により大幅な利用者数減少

具体的な取組みに対する評価

- ・ 運行本数の減便等を行わず、乗車空間が密になるリスクを下げ、継続的に運行を実施した
- ・ 交通事業者による感染症対策や、市広報紙等での対策実施の周知を行い、利用者数が回復

課題

withコロナの中長期的な対策

- ・ 中長期的な感染症対策等の必要性
- ・ 公共交通利用に対する心理的な不安

対応方針

【対応方針】

- ・ 継続的な感染症対策（消毒・換気等）の実施
- ・ 対策実施状況や車内換気の状態等をPR
- ・ 非接触交通系ICカードの利活用推進

利用者数減少による公共交通網の縮小

- ・ 急激な利用者数減少による収益悪化
- ・ マイカー志向の高まり等による公共交通離れ

【対応方針】

- ・ 公共交通の利便性向上
- ・ さらなる公共交通モード間の連携強化
- ・ 公共交通を活用したお出かけ促進等、利用促進

利用者の減少が続くデマンド型交通

- ・ ふれあいタクシーについて継続的な利用者減
- ・ 固定客が離れた鵜沼南は、前年対比43%減
- ・ 様々な利用促進も継続的な利用に繋がらず

【対応方針（結果）】

- ・ 懇談会等の意見等を踏まえ、新たなデマンド型交通の検討
- 「チョイソコかかみがはら」（R2.10～）

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

各務原市地域公共交通会議

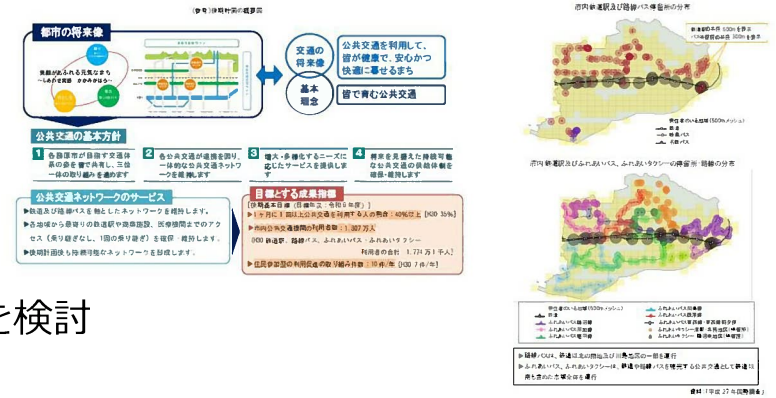
平成25年11月25日設置

フィーダー系統 令和元年6月24日 確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会 における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
ふれあいバスの路線について、各路線ごとの利用状況の把握に努めるとともに、時勢に見合った利用促進に取り組んでいることを評価する	継続的に各路線ごとの利用状況の把握に努め、商業施設等と連携した利用促進企画等に取り組んだ。	今後も継続的に定量的な数値の把握とともに、地域ニーズ等定性的な評価把握に努める。 withコロナの中、可能な範囲でお出かけ促進に取り組む。
新たな交通システムを導入する前に、既存の交通体系が利用ニーズに対応できているか検証をすること。	ふれあいタクシーについては、乗り方教室、無料期間等、様々な利用促進を行った上で、懇談会等の意見を踏まえ、運行内容の改正に取り組む。	「チョイソコかかみがはら」実証実験を行い、課題となった複雑なダイヤの撤廃や、停留所数の拡充の改善を図った。
新たな網形成計画においては、交通事業者や地域の関係者により強固な協働に努めること。	網形成計画後期計画では、各公共交通のネットワークの維持を図るとともにタクシーについても公共交通として位置づけた。	市内タクシー事業者とも連携した地域公共交通の検討を行っていく。

□地域公共交通網形成計画（後期計画）の策定

- 市網計画は平成27年度から10年間の計画期間5年経過時点で、前期計画を評価・分析し、後期計画を策定（後期計画：令和2年度～令和6年度）
- 同計画では、前期計画の実績を基に自己評価を行ったほか、タクシーを公共交通として位置付け実情に合わせたふれあいバス等の改正、デマンド交通の拡充等を検討



計画は、市ウェブサイトでも公表

□民間と連携したお出かけ促進企画

- 新たにオープンした民間大型商業施設と連携して、店舗まで公共交通ツアーを開催
- 自宅までのバスルートを探ったり、バスロケなどを紹介しながら店舗まで公共交通で移動

参加者10名
（うち、普段公共交通を使わない方8名）



□新たなデマンド型交通の検討

- ふれあいタクシー（デマンド型交通）について、地域での懇談会や利用実態を整理し、利便性向上を検討
- 「チョイソコかかみがはら」実証実験に向けた調整（令和2年10月1日運行開始）
- チョイソコ運用の中で、単なる足の確保だけでなく、お出かけ促進の企画を検討

10月1日
出発式の様子

